

# 平成30年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : 日本電気(株)、東京大学、日本電信電話(株)、早稲田大学  
: IoT共通基盤技術の確立・実証

研究開発課題 : 課題 I 高効率かつセキュアなIoTデータ収集・配信ネットワーク  
制御技術の確立

研究開発期間 : 平成28～30年度

代表研究責任者 : 下西 英之

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)  
(評価点 18点／25点中)

## (総論)

目標を当初の計画どおり達成するための努力が認められる。顧客へのヒアリングにより、技術シーズがマッチするのがLPWA(Low Power Wide Area、低消費電力で広いカバーエリアをもつ低コストの無線通信システム)領域であることを見出し、計画を一部変更するなどの追加の対策が講じられている点は高く評価できるが、アプリケーションシナリオと要素技術の対応を検討すべきである。また、一部の課題については、基礎研究としては意義が認められるものの、事業化の視点がきわめて弱いように感じられることから、ビジネスプロデューサーのリーダーシップのもと、事業化の検討にしっかりと研究者のリソースを割きながら、研究開発を進める必要がある。

## (コメント)

- 目標を当初の計画どおり達成するための努力が認められる。
- 顧客ヒアリングから技術シーズとマッチするのがLPWA領域であることを見出し、計画を一部

変更するなどの対策を講じている。

- 課題I-ウ)及び課題I-オ)のテーマに関しては、基礎研究として意義があることは理解しているが、事業化の視点がきわめて弱いように感じられる。せっかくの国プロであるため、参画研究者が事業化の検討にしっかりとリソースを割きながら、研究開発を進めていただきたい。ビジネスプロデューサーがそれなりのリソースを割いてリーダーシップをもって進められることを期待したい。
- アプリケーションシナリオと要素技術の対応があるとよい。

## (1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム 目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

### (総論)

目標を当初の計画どおり達成するための努力が認められる。顧客へのヒアリングにより、技術シーズがマッチするのがLPWA領域であることを見出し、計画を一部変更するなどの追加の対策が講じられている点は高く評価できる。

### (コメント)

- 目標を当初の計画どおり達成するための努力が認められる。
- 顧客ヒアリングから技術シーズとマッチするのがLPWA領域であることを見出し、計画を一部変更するなどの対策を講じている。

## (2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

### (総論)

特段の問題点はなく、適切な予算執行がなされており、妥当と判断する。

### (コメント)

- 適切であり、特段の問題点は見受けられない。

### (3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

#### (総論)

顧客へのヒアリングにより、技術シーズがマッチするのが LPWA 領域であることを見出し、計画を一部変更するなどの追加の対策が講じられている点は高く評価できるが、アプリケーションシナリオと要素技術の対応を検討すべきである。一部の課題については、基礎研究としては意義が認められるものの、事業化の視点がきわめて弱いように感じられることから、ビジネスプロデューサーのリーダーシップのもと、事業化の検討にしっかりと研究者のリソースを割きながら、研究開発を進める必要がある。

#### (コメント)

- 顧客ヒアリングから技術シーズとマッチするのが LPWA 領域であることを見出し、計画を一部変更するなどの対策を講じている。
- アプリケーションシナリオと要素技術の対応があるとよい。
- 課題 I-ウ) 及び課題 I-オ) のテーマに関しては、基礎研究として意義があることは理解しているが、事業化の視点がきわめて弱いように感じられる。せつかくの国プロであるため、参画研究者が事業化の検討にしっかりとリソースを割きながら、研究開発を進めていただきたい。ビジネスプロデューサーがそれなりのリソースを割いてリーダーシップをもって進められることを期待したい。

### (4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

#### (総論)

平成 29 年度実績及び平成 30 年度実施計画に基づいた妥当な計画となっている。

#### (コメント)

- 当初の予算計画通り執行されている。
- 特段の問題は認められず、実績及び計画に基づいて適切な予算計画である。

## (5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

### (総論)

十分な実力を備えた組織体制となっており、定例会合を開催して出口戦略を議論し、新たな領域を見いだしている点などは高く評価できる。ただし、一部の課題については、基礎研究としては意義が認められるものの、事業化の視点がきわめて弱いように感じられることから、ビジネスプロデューサーのリーダーシップのもと、事業化の検討にしっかりと研究者のリソースを割きながら、研究開発を進める必要がある。

### (コメント)

- 十分な実力を備えた組織体制となっている。
- 総合ビジネスプロデューサーのリードのもと、月一の定例会議にて、各課題の研究者で出口戦略を議論している。
- 課題I-ウ)及び課題I-オ)のテーマに関しては、基礎研究として意義があることは理解しているが、事業化の視点がきわめて弱いように感じられる。せつかくの国プロであるため、参画研究者が事業化の検討にしっかりとリソースを割きながら、研究開発を進めていただきたい。ビジネスプロデューサーがそれなりのリソースを割いてリーダーシップをもって進められることを期待したい。